

## 039 日滝史蹟保存会文書目録と目録作成について

1 松川左岸扇状地一帯に広がる日滝村の集落は、本郷・大谷・高橋・相森の4地区に成立し、発展してきている。相森新田が開発される前は、日滝三ヶ村と呼ばれていた。近世を通して須坂藩領では、高い村高を示し、「慶長打立帳」925石余、「元禄郷帳」1057石余、「天保郷帳」2032石余、「旧高田領」2153石余とされる(『日本地名大辞典』)。元禄以降18世紀を経て天保期までの間に日滝原の開発が進み、石高が2倍近くの2000石をこえるまでに増大している。村の戸口の状況をみると文政4(1821)年には91戸・384人を数え、明治11(1878)年になると289戸・1261人となっている。なお、同年の耕地は、田53町余、畑379町余となっている。村内には、本郷大塚古墳など古墳も多く、古くからの歴史をもつ地域としても特色付けられる。

2 当日滝史蹟保存会の所蔵する文書は、近世では、元和6(1620)年の日滝村地詰之帳を初出とし、寛政期の用水出入り一件、文化文政期の久離・帳外し史料、近代では、明治期の水車設立・故障をめぐる裁判関係史料、水番日記等史料、役場関係諸史料、消防史料、本郷区戸籍や財政関係史料が目を引き。昭和期では、日中戦争から太平洋戦争への時代の動向を示す昭和18・19・20年の史料と終戦直後の貴重な史料がある。

日滝村が営々として村づくりに励んできた証である半世紀にわたる史料が、2000点を越す史料として存在している。

3 ここでは、その史料を、「日滝史蹟保存会文書目録」として作成する。『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「039」(39番目)に位置付け、史料番号は「039-A-1」から開始し、整理ラベルを貼付した。

目録は、原則として史料を時系列に並べ、つぎのように分類して作成した。

分類項目	史料番号	史料点数
A 江戸期	515	531
B 明治期	442	444
C 大正期	105	105
D 昭和期	587	604
E 絵図・写真	118	136
F 神社史料	147	188
総計	1914	2008

4 本史料目録が、日滝史蹟保存会関係区民をはじめ須坂市民ほか多くの地域史研究者によって活用されることを願ってやまない。加えて、当史蹟保存会文書の史料調査・研究を深めて、区民の歴史を叙述、編さんすることを期待したい。

5 史料目録の作成にあたっては、史料の現状・存在形態を尊重しつつ史料閲覧者の便宜も考慮して、つぎのようにした。

(1) 史料名は原則として史料中に記載された表題を記載したが、無表題史料などには、

つぎのように（ ）をもちいて仮表題を作成し掲げた。

(畑荒地調べ)

(大洪水の絵図面)

- (2) 「記」、「覚」のみで内容未記載の史料については、つぎのように（ ）内に内容説明を記載したものもある。

記(祭典関係領収書)

覚(土地借用書類)

- (3) 請取りなど切手類の史料は、便宜的に括って整理したものもある。その場合は、つぎのように一枚目の史料名を記し、他の史料については「外○点」などと略記した。備考欄には「便宜括り」と記載しておいた。

記(上納金領収書)、外5点

地所登記済証下付願、外9点

- 6 本史料目録は、日滝史蹟保存会のご理解・ご協力を得て、須坂市誌編さん室の下記専門員が分担して作成した。

小林謙三

勝山一男

涌井二夫

丸山文雄

井上光由

竹内正勝

小林裕

(編さん担当：青木廣安・丸山文雄)

2011年2月18日

須坂市誌編さん室